

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

赤坂小丸山遺跡が所在する大山町は鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市に隣接する(第3図)。町域は南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下槇原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km<sup>2</sup>を測り、人口は17,415人(平成25年12月現在)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

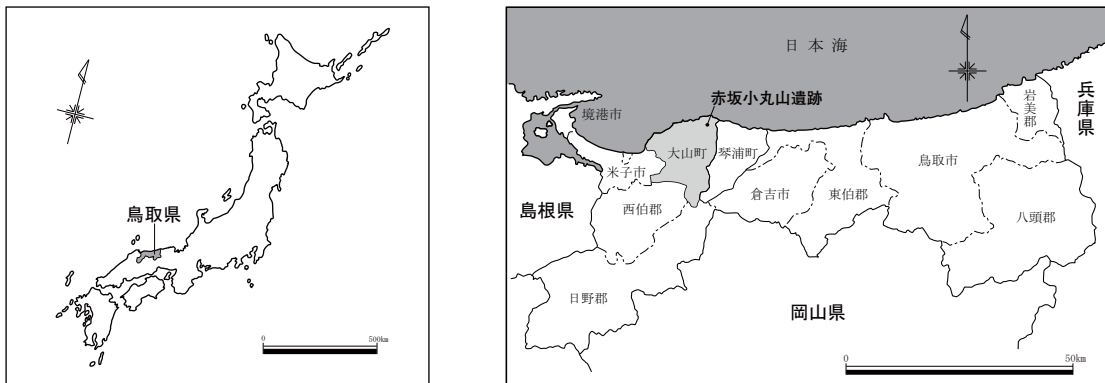
本町の地勢は大山山系から放射状に流れる小河川により開削並びに侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小溪谷が繰り返す火山性台地と甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、とくに阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、御来屋砂礫層上に主に大山火山灰土の堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

赤坂小丸山遺跡は大山町の東端に位置し、海岸線から南に約2.3kmの標高約70mの台地状にある。台地の基盤層は火砕流堆積と考えられる礫層上に大山上部火山灰が堆積していたものと考えられる。本遺跡の谷を挟んだ西の丘陵上には下甲退休原第1遺跡が、東の丘陵上には赤坂頭無し遺跡が位置している。

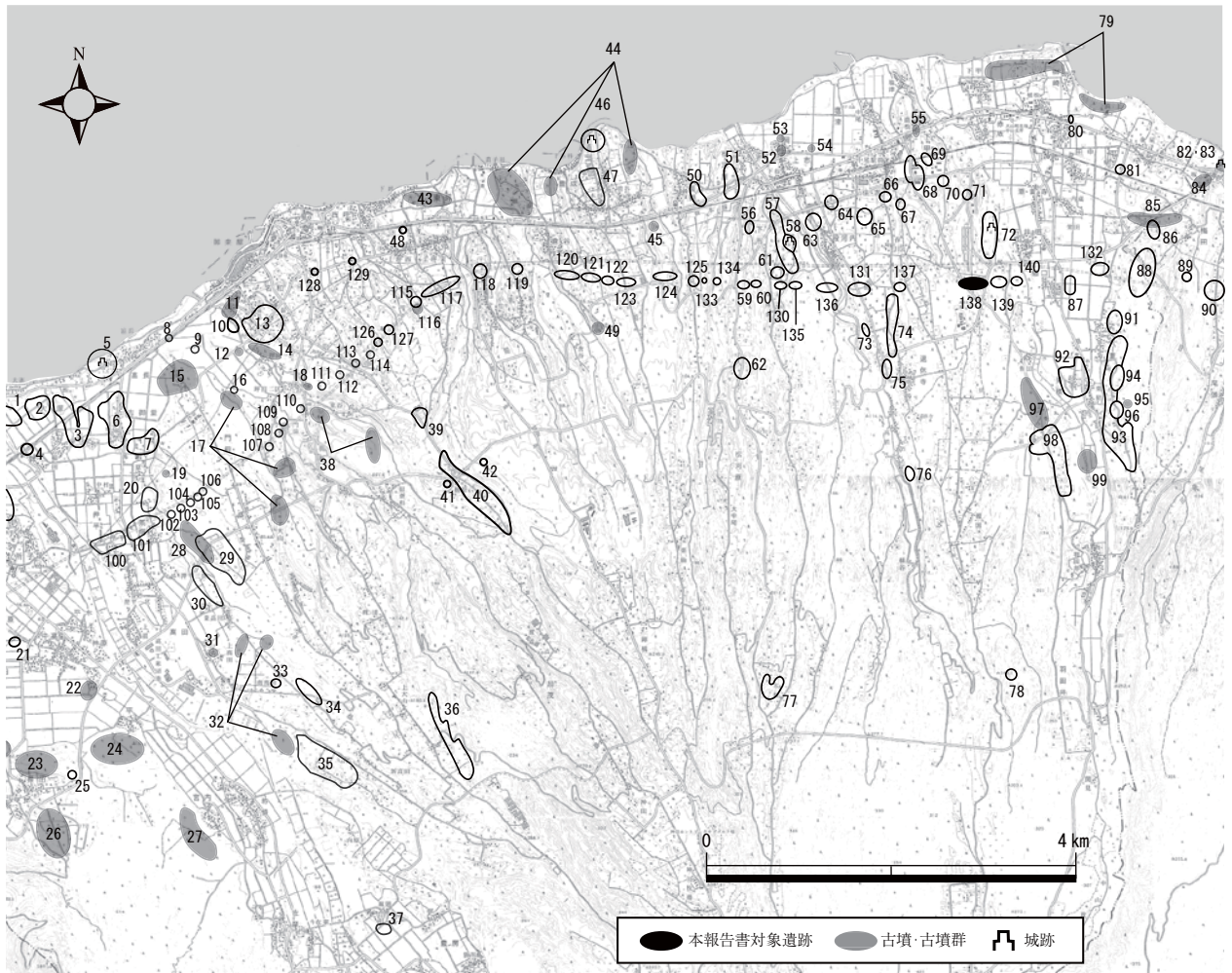
### 第2節 歴史的環境

#### 旧石器時代

発掘調査によって確認された、鳥取県下の旧石器遺跡は現在のところ5遺跡である。豊成叶林遺跡(122)、下甲退休原第1遺跡(138)では、AT火山灰下の白色ローム層中で玉髓製ナイフ形石器をはじめ玉髓の剥片、黒曜石製小石刃が原位置を保って出土している。また、殿河内ウルミ谷遺跡(135)では黒曜石製小石刃・石核が出土している。その他周辺では、梅田萱峯遺跡(88)でナイフ形石器が、豊



第3図 遺跡位置図



1. 大塚第3遺跡、2. 大塚塚根遺跡、3. 大塚塚根遺跡、4. 大塚塚根遺跡、5. 富長城跡、6. 古御堂遺跡、7. 文殊領屋敷遺跡、8. 荒田遺跡、9. 南川遺跡、10. 馬郡遺跡、11. 名和公園裏古墳群、12. ヘンボ塚古墳、13. 長者原遺跡、14. 坪田古墳群、15. 富長山村古墳群、16. 門前礎石群、17. 門前古墳群、18. 長綱時古墳群、19. 原3号墳、20. 茶畑山遺跡、21. 清原遺跡、22. 中高遺跡、23. 長田古墳群、24. 平古墳群、25. 徳楽方墳、26. 源平山古墳群、27. 宮内古墳群、28. 茶畑古墳群、29. 茶畑第2遺跡、30. 東高田遺跡、31. 高田26号墳、32. 高田古墳群、33. 高田原廃寺、34. 高田第4遺跡、35. 高田第10遺跡、36. 上大山第1遺跡、37. 蔵岡第1遺跡、38. 梶原古墳群、39. 角塚遺跡、40. 柳原遺跡、41. 柳原竈跡、42. 上寺谷たたら、43. 東坪古墳群、44. 豊成古墳群、45. 豊成28号墳、46. 長野城跡、47. 浜ノ坂遺跡、48. 龍光寺掘遺跡、49. 倉谷横穴墓、50. 松河原第1遺跡、51. 松河原第2遺跡、52. 岩屋堂古墳(岡古墳)、53. 岡3号古墳、54. 高塚古墳、55. 曲松古墳群、56. 築地峯東通遺跡、57. 林之峯東通遺跡、58. 天守山遺跡、59. 下市築地ノ峯東通第2遺跡、60. 下市築地ノ峯東通第2遺跡、61. 要害ノ峯遺跡、62. 築地ノ峰第3遺跡、63. 細工塚遺跡、64. 向畑遺跡、65. 住吉第4遺跡、66. 住吉第1遺跡、67. 住吉第2遺跡、68. 小松谷遺跡、69. 林之峯遺跡、70. 下甲拔堤遺跡、71. 赤坂後口山遺跡、72. 石井垣城跡、73. 殿河内落合遺跡、74. 退休寺遺跡、75. 退休寺飛渡り遺跡、76. 退休寺第1遺跡、77. 二本松遺跡、78. 羽田井遺跡、79. 御崎古墳群、80. 御崎第2遺跡、81. 田中川上遺跡、82. 徳津城跡、83. 徳津古墳群、84. 坂ノ上古墳群、85. 梅田(栄田)古墳群、86. 梅田六ツ塚遺跡、87. 樋口第1遺跡(樋口遺跡)、88. 梅田峯遺跡、89. 梅田東前谷中峯遺跡、90. 徳津乳母ヶ谷第2遺跡、91. 八重第3遺跡、92. 樋口第2遺跡、93. 八重第4遺跡、94. 八重第1遺跡、95. 岩屋平古墳、96. 八重第2遺跡、97. 三谷古墳群、98. 三谷遺跡、99. 東積古墳群、100. 押平弘法堂遺跡、101. 茶畑六反田遺跡、102. 茶畑第1遺跡、103. 押平尾無遺跡、104. 古御堂佐尾山遺跡、105. 古御堂金蔵ヶ平遺跡、106. 古御堂新林遺跡、107. 門前第2遺跡、108. 門前鎮守山城跡、109. 門前上屋敷遺跡、110. 名和飛田遺跡、111. 名和乙ヶ谷遺跡、112. 名和衣装谷遺跡、113. 名和小谷遺跡、114. 名和中畝遺跡、115. 西坪岩屋谷古墳、116. 西坪岩屋谷遺跡、117. 東坪中林遺跡、118. 小竹下宮尾遺跡、119. 小竹上鷹ノ尾遺跡、120. 倉谷西中田遺跡、121. 倉谷荒田遺跡、122. 豊成叶林遺跡、123. 豊成上神原遺跡、124. 豊成上金井谷峰遺跡、125. 松河原上奥田第2遺跡、126. 西坪上高尾原遺跡、127. 西坪下馬駄ヶ峰遺跡、128. 名和下菰谷遺跡、129. 西坪三軒屋遺跡、130. 下市天神ノ峯遺跡、131. 殿河内定屋ノ前遺跡、132. 樋口西野末遺跡、133. 松河原上奥田第3遺跡、134. 下市前築地遺跡、135. 殿河内ウルミ谷遺跡、136. 殿河内上ノ段大ブケ遺跡、137. 下市退休原第1遺跡、138. 赤坂小丸山遺跡、139. 赤坂頭無し遺跡、140. 石井垣上河原遺跡

第4図 周辺遺跡分布図

成上金井谷峰遺跡(124)で台形石器が、本来の位置を遊離した状態で出土している。

### 縄文時代

県内においても数多く分布する地域である。草創期では羽田井・退休寺などで有茎尖頭器が表採され、発掘調査では住吉第2遺跡(67)で有茎尖頭器、細工塚遺跡(63)で局部磨製石斧が出土し、赤坂小丸山遺跡でも有茎尖頭器が1点出土した。早期では遺構は伴わないが、赤坂後口山遺跡(71)や退休寺飛渡り遺跡(75)、上大山第1遺跡(36)、角塚遺跡(39)などで押型文土器が出土している。早期末から前期初頭では西坪上高尾原遺跡(126)で石器製作址が確認され、下築地ノ峯東通第2遺跡(60)でも黒曜石を主体とする石器が多量に出土している。細工塚遺跡では前期の貯蔵穴が確認されている。

後期では殿河内上ノ段大ブケ遺跡(137)では、石囲炉をもつものを含め5棟の竪穴建物跡が検出され、県内でも屈指の縄文集落といえる。また、南原千軒遺跡(琴浦町光)でも石囲い炉をもつ竪穴住居

跡が検出されており、土偶も出土している。その他に落とし穴が殿河内定屋ノ前遺跡(131)をはじめ、八重第3遺跡(91)、小松谷遺跡(68)、下甲抜堤遺跡(70)、赤坂後口山遺跡(71)、下市築地峯東通第3遺跡(59)、小竹上鷹ノ尾遺跡(59)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵や微高地縁辺部が利用された様子が窺われる。

### 弥生時代

前期の遺跡は少なく、樋口第1遺跡(87)、三谷遺跡(98)などで土器が出土しているにすぎない。中期になると遺跡数が増え、殿河内定屋ノ前遺跡(131)、細工塚遺跡、退休寺遺跡(74)、退休寺飛渡り遺跡で集落が営まれる。なかでも殿河内定屋ノ前遺跡ではサヌカイトを主体とする多数の剥片や石核などの残滓類や未成品が出土し、集落内での石器製作が窺える。また、倉谷荒田遺跡(121)では中期後葉の竪穴建物跡から鉄製品が出土しており、山陰地方における鉄器の普及開始段階の一例となっている。墳墓では梅田萱峯遺跡では中期後葉の貼石を施した長方形の墳丘墓(梅田萱峯墳丘墓)が築造されており、県内では最古級の弥生墳丘墓である。後期には退休寺遺跡、八重第3遺跡、窺津乳母ヶ谷第2遺跡(90)、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡(89)など丘陵上に集落が多数営まれる。湯坂遺跡(琴浦町湯坂)では小型の墳丘墓が築かれ、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉を副葬品にもつ。

### 古墳時代

古墳時代前期では本遺跡に隣接する石井垣上河原遺跡で方墳に加え、弥生時代からの伝統的な墳形である四隅突出型の墳墓が造営されている。その他に前方後方墳である別所1号墳(笠取塚古墳・52m)(琴浦町別所)は墳形の特徴から前期に築造された可能性がある。中期では直径30mの大型円墳である高塚古墳(岡1号墳)(54)が築造され、朝顔形埴輪・形象埴輪などが出土し、当地域の首長墳に位置付けられる。後期になると、御崎古墳群(79)、束積古墳群(99)、三谷古墳群(97)、豊成古墳群(44)など群集墳が形成されている。このうち、御崎古墳群はこの地域特有の河原石を用いた箱式石棺を主体部にもち、東伯耆を中心に分布する壺形埴輪が出土している。その一方で、岩屋堂古墳(岡古墳)(52)、長野2号墳、岩屋平ル古墳(95)、豊成28号墳、出上岩屋古墳(県史跡)(琴浦町出上)などは出雲から西伯耆にかけて分布圏をもつ切石積みの横穴式石室が採用されている。

古墳時代の集落は依然として丘陵上に営まれ、前期の八重第3遺跡、下市前築地遺跡、中期から後期の赤坂頭無し遺跡(140)、住吉第2遺跡、南原千軒遺跡などが知られる。また、窺津乳母ヶ谷第2遺跡(90)では、7世紀代の鍛冶工房が検出されている。

### 古代

大山町東部(旧中山町域)は伯耆国汗入郡あたる。『倭名類聚抄』によれば、束積・汗入・奈和・尺度・高住・新井の6郷が記載される。汗入郡衙の所在は諸説あるが、長者原遺跡(13)では礎石建物の存在や炭化米の出土から郡衙正倉(別院)の可能性がある。その他に官衙関連遺跡として名和衣装谷遺跡(112)や樋口西末野遺跡(132)がある。古代寺院は汗入郡では上淀廃寺と高田原廃寺(33)が知られ、なかでも上淀廃寺は三塔を配する類例のない伽藍配置をもち、多量の仏教壁画や塑像が出土したことで著名である。古代山陰道は『延喜式』に記載される和名駅(名和駅の誤記か)が汗入郡に置かれたとみられ、名和下菖蒲谷遺跡(128)、西坪三軒屋遺跡(129)で山陰道とみられる大規模な道路遺構が確認されている。

生産遺跡では下市築地ノ峯東通第2遺跡で9世紀後半の須恵器窯3基(2基は瓦陶兼業窯)と製鉄炉1基が確認され、焼成された瓦は上淀廃寺に供給されていた可能性が指摘されている。窯跡ではその

## 第2章 位置と環境

他に上淀廃寺の瓦窯とされる小枝山瓦窯や栃原窯跡(40)が知られるが、栃原窯跡は炭窯とする見解もある。製鉄遺跡は下市築地ノ峯東通第2遺跡の他に上寺谷たたら(42)、赤坂小丸山遺跡でも箱形炉が検出されている。赤坂小丸山遺跡の製鉄炉は古代末から中世初頭に位置付けられ、大規模な粘土採掘坑や作業道とみられる道路遺構が付随することも確認されている。殿河内ウルミ谷遺跡では河川跡から板屋型羽口や精錬鍛冶滓が多量に出土しており、平安時代後半頃に大規模な精錬鍛冶施設が存在していたと考えられる。

集落では堅穴建物跡や掘立柱建物跡が確認された小松谷遺跡、細工塚遺跡があり、田中川上遺跡(81)では溝から8世紀前半の須恵器・土師器がまとまって出土している。その他に倉谷西中田遺跡(120)や松河上奥田第2遺跡(125)では製塩土器(焼塩土器)の廃棄土坑が確認され、集落内における塩の流通を考えるうえで興味深い。墳墓は新たに火葬墓や経塚が造られるようになり、汗入郡内では平安時代末期の壹宮神社経塚が知られ、経筒とともに和鏡が8枚出土している。

### 中世

山岳寺院である大山寺は密教隆盛とともに信仰の中心的な役割を果たし、地方豪族に並ぶ僧兵勢力を有すようになる。近年、僧房跡の発掘調査が行われ、青磁や白磁、高麗青磁など多量の貿易陶磁が出土し、その繁栄の一端が明らかとなりつつある。周辺の寺院では籠津豊後守敦忠によって1357(延文2)年に開基されたと伝えられる金龍山退休寺があり、近世を通じて曹洞宗の大寺院として隆盛を極め、周辺には参詣道の痕跡や一丁地蔵が今も残っている。

南北朝期には標高615mの船上山に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)があり、旧名和町域には名和氏に関する旧跡が認められる。中世城館は各地に残り、籠津豊後守敦忠の居城とされる石井垣城跡(72)、天守山城跡(58)、條山城跡(琴浦町太一垣)、大仏山城跡(琴浦町宮木)がある。日本海沿岸部にも長野城跡(46)・籠津城(檳城)跡(82)など砦跡が多く築かれている。

発掘調査では門前鎮守山城跡(108)で、大規模な土塁・堀切が検出されている。また南原千軒遺跡や倉谷西中田遺跡では大規模な堀に囲まれた居館跡が確認されている。なかでも倉谷西中田遺跡では2時期の変遷を辿ることができ、中世後半に自然地形を利用した屋敷地から四方を堀で囲む方形居館へと変貌したことが判明している。

なお、鎌倉時代末期には琴浦町の海岸部から船上山にかけて『赤碕塔』と呼ばれる石造物が建てられ、宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態をなしている。

### 【参考文献】

中山町誌編集委員会編2009『新修中山町誌』

名和町誌編纂委員会編1978『名和町誌』

鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』

鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』

鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』

内藤正中・真田廣幸・日置左エ門著1997『県史31 鳥取県の歴史』(株)山川出版社

鳥取県教育委員会2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)

※発掘調査報告書類については割愛させていただいた。